



◆特集/ここが知りたい! 顔面の Rejuvenation—患者さんからの希望を中心に—

E. Skin Rejuvenation

PRP 療法の実際：フィラーとしての PRP 療法

飯尾 礼美*

Key Words : 多血小板血漿 (platelet-rich plasma : PRP), 塩基性線維芽細胞増殖因子 (basic fibroblast growth factor : b-FGF), 若返り (rejuvenation), 組織増量 (tissue augmentation), 量的復元 (volumetric restoration), フィラー (filler)

Abstract PRP 注入治療が若返り治療として普及してきているが, PRP の採取方法や患者の状態によって, 治療効果は不安定で評価も様々である.

そこで, PRP 治療の効果を高め安定化させる一つの方法として考案されたのが, “PRP に b-FGF を添加する” 手技である.

この治療は, PRP 本来の肌質改善効果に加え, b-FGF の作用による組織増量効果が明らかにみられ, 持続性にも優れているため, 上手くいけば患者満足度は非常に高い. いわば多くの患者が望む「異物でない簡単で長持ちするフィラー」としての期待がもてる.

一方, これは生体反応を利用するため, 患者の体質・体調・年齢により反応が異なり, 効果発現までに時間がかかるため, 効果の量的調節が難しく, それに起因するトラブルが遷延する一面も否めない.

本稿では, 我々が行っている手技を紹介するとともに, 治療部位の経時的变化も含め, トラブルを回避するための, 治療に関する患者への説明や手技の留意点, さらにトラブルの治療方法について解説する.

はじめに

自己血液を遠心して得られる血小板が高濃度な血漿分画 (PRP : platelet rich plasma) を用いた自己組織再生医療を, しわやたるみに対して応用する治療が近年広まっているが, 我々は治療成績の向上のために川添らが考案した①遠心分離速度を下げた血小板と白血球の混合比を変える手技 (白血球含有多血小板血漿 : W-PRP)¹⁾と②創傷治癒に関わる増殖因子である塩基性線維芽細胞増殖因子 (b-FGF) を添加する²⁾手技を用いている.

この方法での際立った効果として, b-FGF の作用で起こる組織増量 (tissue augmentation) による³⁾, 深いしわ, 陥凹などに対する volumetric restoration がある. これには, 従来のフィラーや

脂肪注入移植術の効果に同等かそれ以上の臨床的意義が期待できる.

ただし本治療は, 再生医療の一つの応用で研究途中の治療であり, 安全性の検証や治療手技が完全に確立されたとは言いがたく, 施術にあたって術者自身が作用原理や副作用の可能性を理解し, 患者からインフォームドコンセントを得る必要がある. 特に注入部位には不可逆的な変化が起きることから, 術者は他の注入療法や手術をそれなりに経験した後に行うことを勧める.

治療原理

創傷治癒の炎症期において出現する血小板や白血球やフィブリンを人為的に注入することで, 放出されたサイトカインによって注入部位とその周囲に創傷治癒反応を惹起し, 加齢によって変性・変形した皮膚・皮下組織を修復させることが治療の狙いである. さらに塩基性線維芽細胞増殖因子 (b-

* Yoshimi IIO, 〒810-0001 福岡市中央区天神 1-3-38 天神 121 ビル 9 階 飯尾形成外科クリニック, 院長